

宮本一夫附属図書館長・副学長による開会の挨拶

宮本，一夫
九州大学大学院人文科学研究院

<https://hdl.handle.net/2324/1917864>

出版情報：2018-02-06
バージョン：
権利関係：



『春水』手稿と日中の文学交流」国際シンポジウム
宮本一夫附属図書館長・副学長による開会の挨拶

本日、ここに冰心の直筆『春水』を記念したシンポジウムを開催できますことを、心からお喜び申し上げます。また、ご来賓いただいた中国駐福岡総領事館何振良総領事ご夫妻には、ご多忙の折、来賓を賜り、心から感謝申し上げます。

『春水』105は、現在でも中国の中学校1年次の教科書に載っており、中国人なら誰でも知っている詩です。その一節は、以下のようなものです。

造物者！

倘若在永久生命中
只容有一次極樂的應許，
我要至誠地求着：
『我在母親的懷裏，
母親在小舟裏，
小舟在明月的大海裏。』

造物主よ！

もし永遠の命の中で
一度限りの極樂が許されるとしたら、
私が心から望むのは、
「私は母の胸にあり、
母は小舟に乗っており、
小舟は月夜的大海に浮かんでいること。」

中国の国民的な作家の直筆の詩が、私ども九州大学附属図書館の濱文庫に収蔵されていたことが発見されたのが、昨年のことでした。このすばらしい詩が、故濱一衛九州大学名誉教授の御寄贈の書籍の中に入っておりまして、『春水』が濱一衛先生の蔵書に残されたのは、周作人先生との親交によるものです。このお二人の師弟愛を越えた友情がなければ、冰心直筆の『春水』は現存しなかったかもしれません。不幸な日中戦争、内戦、さらに文化大革命の嵐の中に、二人は相まみえることもないまま、お互いに言葉を交わすこともなく、互いを想い友情をはぐくまれたことと思います。その賜が、冰心直筆『春水』の本大学での存在ではなかったのではないのでしょうか。私どもは、お二人の心を汲み取り、この濱文庫を一つの糧として、日中の着実な友好関係を発展させることを誓いたいと思います。そして『春水』をはじめとした貴重な濱文庫をしっかりと保存しながら、日中の学術研究に貢献していきたいと考えております。

本日、周作人先生のお孫様の周吉宣さまとそのお嬢様には、わざわざ本学までお越しいただき、ありがとうございます。また、濱一衛先生の周作人関係の書を新たに御寄贈いただいた濱一衛先生のお嬢様である藤本康子様とご家族の皆様にも、お越しいただきましたことを、あらためて感謝申し上げます。両家の再会が80年以上たってかなったことも、私と致しましても大変な喜びでございます。このことは、濱一衛先生と周作人先生の再会の思いが叶ったことと思われてなりません。そして最後に、冰心の直筆『春水』を発見され、このような学術シンポジウムを開催していただきました本学言語文化研究院の中里見敬先生にも衷心から感謝申し上げます。

2018年2月6日

九州大学附属図書館長・副学長
宮本一夫